

六月十二日 月曜日

一、公報千八百十七号收受

一、来校者 校長先生外部落巡視ノ諸先生

出征者 高島広尉氏他五名挨拶二

一、高二男 午前中 農圃作業ヲ行フ

一、綱島勇氏出征ニツキ挨拶ニ来校

六月十三日 火曜日 曇

一、高二男 午前中 農圃作業ヲ行フ

一、来校者 校長先生外部落巡視ノ諸先生

新倉氏 田戸氏 森町氏（出征挨拶ノタメ）

渡辺トミ氏（校長先生ニ用アリテ）

半島人（入学ノコトニツキ）

半島人

韓国併合後 植民地となつた朝鮮半島出身の人々に対する蔑称。

太平洋戦争が始まると、軍都計画の二画であつた綾瀬村周辺には、強制連行された人々も含めて多くの朝鮮半島出身の人々が働いていました。主に軍事基地や軍需工場の建設に携わつていたため、軍部や警察の厳重な監視下におかれていました。

男子の単身者が多かつたようですが、家族をつれてきた者もいました。

六月十四日 水曜日 雨後曇

一、高二男 午前中 農圃作業ヲ行フ

一、来校者 校長先生外部落巡視ノ諸先生

藤沢第二国民学校鈴木、榛葉先生

一、十五日体操講習会ニツイテ雨天共実施ノコト及ヒ同日九時ヨリ藤沢第四国民学校ニ於イテ校長会ナルコトヲ中部各校ニ通知ス

一、文書交付

校長宛三 他一

六月十五日 木曜日 曇

一、午前九時ヨリ藤沢第四国民学校ニ於イテ校長会行ハル

一、午後一時ヨリ本校ニ於テ中部会第一回体操講習会行ハル 講師石井宗一先生

一、来校者 金子氏 中部各校職員多数

一、十七時三十五分 警戒警報発令

備考 十七時三十五分警戒警報発令ニツキ 早川明能同直ス

六月十六日 金曜日 曇

一、高二男 午前中 農圃作業ヲ行フ

一、来校者 金子氏 長龍寺住職 昭和十八年度卒業生（三名）部落巡視の

諸先生、校長先生執務（午前中）

校長先生自宅ヨリ便コラル

一、応徴士慰問畫画発送ス（県庁宛）

一、郡体育主任委員会（麻溝校） 警戒警報発令中ノ為中止

備考 警戒警報発令中ニ付 大塚善正同直ス

六月十七日 土曜日 曇

一、高二男 午前中 麦脱穀ヲナス

一、薙刀講習会（本校ニ於テ） 八警戒警報発令中ノタメ中止ス

六月十八日 日曜日 晴

一、左記文書受付

公報(千八百十八号) 学校長宛四 学校宛一

飯田先生宛一

一、警戒警報解除 午後十二時三十五分

一、来校者 橘川氏(出征挨拶ノ為) 父兄一

一、警戒警報再度発令 午后九時

備考 警戒警報発令ニツキ安藤同宿ス

六月十九日 月曜日 晴

一、高等科児童ニテ軍用地水田ノ植付ヲナス

(井上 橘川、池田重、池田武、鈴木、西沢、比留川ノ七先生及ビ小使同行)

一、御所見校ヨリ電話アリ(明ニ十日青少年団幹事会ノ件ニツキ)

一、来校者 井上ラジオ店主 一年生ノ児童父兄

一、午後四時一分警戒警報解除

六月二十日 火曜日 曇後雨

一、前日ニ引キ続キ高等科児童ニテ軍用地水田ノ植付ヲナス 井上、橘川、池田

重、池田武、鈴木、比留 川ノ諸先生及ビ小使同行

一、初等六年男 麦刈(飯田) 五年大上軍用地除草

一、来校者 広田氏(出征ニツキ挨拶ノタメ)

六月二十一日 水曜日 薄曇

一、前日ニ引キ続キ高等科児童 軍用地水田ノ植付ヲナシ、本日ヲ以テ終了ス

橘川、池田重、池田武、鈴木、比留川ノ諸先生及ビ小使同行ス

六月二十二日 木曜日 晴

一、初六児童 麦上奉仕ヲナス

一、郡体育主任会 河原口分校(池田武先生出向サル)

六月二十三日 金曜日 晴

一、小麦刈奉仕(初五以上部落別)ヲナス

一、来校者 転校児童ノ父 分校ノ諸先生

六月二十四日 土曜日 晴

一、小麦刈奉仕(初五以上部落別)ヲナス

一、中部会主催 薙刀講習会アリ 午後一時ヨリ

一、来校者 御所見高女 斉藤先生 会員多数

御所見高等女学校

綾瀬村の隣村である御所見村にあった高等女学校。

一九〇六(明治三九)年に実業補習学校として創立され、やがて実科高等女学校となり、一九四四(昭和一九)年に中学校令により高等女学校となりました。

六月二十五日 日曜日 晴

一、左記文書受付

学校長宛三 鈴木も先生宛一 鹿島先生宛一

六月二十六日 月曜日 晴

一、中部体育主任会行ハル

一、来校者 児童父兄二名

勤勞奉仕ノ件ニヨリ内務省ヨリ来校

海軍小野氏(電話ノ借用)

六月二十七日 火曜日 晴

一、軍用地小麦刈(初五以上)ヲナス

一、英靈出迎(吉岡、中村)后四時

六月二十八日 水曜日 晴

一、本日高等科ノ一部ヲ召集シ麦脱穀発動機作業ヲナス

一、本日ヨリ一週間初四以上農繁中授業ヲ行ワズ

一、非農家児童八落合部落ノ勤勞奉仕ヲナス

各児童ヨク作業ヲナス

一、公報 千八百十九号 收受

六月二十九日 木曜日 晴 三十一度

一、職員(男)ト高等科一部児童ヲ召集シ朝七時ヨリ午後五時半マデ麦脱穀発動機作業ヲナス

一、非農家児童八女職員引率ノモトニ上深谷部落ノ勤勞奉仕ヲナス

一、故曾根綾雄氏、見上道一氏、比留川智氏三家ニ梅村中佐弔問ニ見エ、校長先生代表ニテ迎ヘラル

一、来校者 川上氏

六月三十日 金曜日 晴

一、全職員及非農家児童ヲシテ脱穀ノ後片付 講堂其ノ他清掃ス

一、秦野視学来校 増産状況視察

一、来校者 鶴野精一氏 出征挨拶ノタメ

師範男子部宿泊ニ依リ蚊帳ヲ持参シ来ル

一、后七時頃師範男子部本科一年約百二十名宿泊ノタメ来校ス 職員二名挨拶ニ来ル

一、附添職員二名 裁縫室使用

七月 一日 土曜日 晴

一、午前九時ヨリ午后二時迄中部会主催第二回目体操講習会行ハル 講師石井宗一先生

一、午后一時ヨリ村常会ニ校長先生、安藤先生、田中先生出席サル

一、来校者 各校長先生 石井先生 他会員多数

一、午後八時ヨリ昭和十五年度卒業生同級会役員会アリ

七月 二日 日曜日 曇後雨

一、左記文書受付

学校宛一、学校長宛三、青年学校長宛一

一、来校者 片野マサ工氏 ラジオ屋サン

七月 三日 月曜日

一、午後二時ヨリ相模川ニテ水泳場実地踏査及研究ヲ行フ、

一、左記文書受付

県公報第千八百二十号

一、来校者 峯尾金次氏 出征挨拶ノタメ

新入児童父兄一名

七月 四日 火曜日 曇

一、初・初二交換授業アリ（本校・綾北）

一、警戒警報発令（午前九時七分）

備考 警戒警報発令中ニツキ橋川重晴同直ス

七月 五日 水曜日 雨

一、来校者 転入児童父兄 比留川氏

一、警戒警報解除（五日、一七時三二分）

七月 六日 木曜日 晴

一、初・二・三交換授業アリ（本校・綾北）

一、午後三時ヨリ 職員常会アリ

七月 七日 金曜日

一、来校者 徴兵検査ノ件ニツキ

村長 峯尾氏 和田氏 青年学校生徒多数

児童父兄一名

七月 八日 土曜日

一、大詔奉戴日ニツキ各部落分団ニテ神社参拝清掃ヲナス

一、校長先生、橋川先生 茅ヶ崎第一校ニ於ケル壮丁検査ニ出席セラル

一、午前中 高等科男女ニテ航空隊内水田ノ除草ヲナス（引率者井上、池田武

鈴木徳、比留川、西沢）

一、午後 中部会薙刀講習 校庭ニ於テ開催サレ出席者多数アリ

七月 九日 日曜日 晴 二十八度

一、本日ノ来校者 出征者 岡本旭氏

七月 十日 月曜日 晴

一、初四以上児童水泳実施ノタメ相模川ニ向フ

一、来校者 壮丁検査ニツキ鈴木村長・峯尾氏外壮丁受検者多数

第二航空隊ヨリ芝植奉仕依頼ノタメ大沢氏

初三児童母、初四児童ノ兄 児童欠席ノ件ニツキ

七月 十一日 火曜日 晴

一、校長先生・井上先生 壮丁検査学科調査委員トシテ茅ヶ崎第一国民学校ニ

出張

一、海老名校ヨリ電話アリ

（中部校長会、県疎開会議ノ件ニツキ）

備考 宿直八矢部教員ノ

七月十二日 水曜日 晴 午後雷 雨模様

一、県庁ニ於テ学童疎開ニ関スル会議ニ校長先生出向

一、大上軍用地除草 初五以上午前中行フ

七月十三日 木曜日 晴

一、初四以上 水泳実施 於 相模川

七月十四日 金曜日 晴

一、初四以上児童 水泳実施 相模川ニテ

一、来校者 加藤貞良氏

七月十五日 土曜日 晴

一、来校者 小山田エイ先生

七月十六日 日曜日 晴 三十一・五度

一、午前十一時半ヨリ第四十一回卒業生同級会
作法室ニ於テ行ハル

一、来校者 校長先生 井上先生 橘川先生 池田先生

川北先生 田中先生 田戸先生（同級会出席）

小林組（飯田先生ニ用アリテ） 榛葉先生 片野マサエ氏

航空隊電話女子交換手二名

七月十七日 月曜日 晴

一、第二航空隊ヨリ就職者選考ニツキテミエラル

一、来校者 鈴木村長

一、初一、二、三担任者徒手体操打合会ヲ放課後開催ス

七月十八日 火曜日 晴

一、中部相撲大会 校庭ニ於テ行ハレル

一、来校者 秦野県視学 中部各校々長 相撲選士

七月十九日 水曜日

一、徒手体操研究会（一、二、三年）行ハル

一、来校者 加藤貞良氏 転入児童父兄

七月二十日 木曜日 晴 夕方ヨリ雨

一、午後二時半ヨリ総務会行ハル

一、来校者 初三児童父兄一、

七月二十一日 金曜日 二十八度 薄曇時々雨

一、本日渋谷校ニ於テ銃剣道講習会開催セラルルニ当リ校長 橘川、池田武
鈴木先生出張

七月二十二日 土曜日 晴 午後北風雨

一、校長先生 校長会議ニ出席

（於藤沢 前九ノ后四）

一、高一男二組井上先生ノ指揮ノ元ニ馬鈴薯ノ収穫ヲナス

一、来校者

高座海軍工廠ノ人一名 井上ラジオ店主 峯尾助役 加藤貞良氏
備考 宿直料以上済（七月二十四日）

七月二十三日 日曜日 曇

- 一、片野マサ工師範生 ピアノ使用ノタメ来校
- 一、文書交付

学校長宛二、青校宛二、鎌師生徒二三

七月二十四日 月曜日 曇

- 一、校長先生 疎開児童ノ宿舍トナル寺院倶楽部等巡視サル
- 二、薙刀講習ノタメ比留川笑、鈴木も、鹿島ノ諸先生茅ヶ崎第一校二出向カル
- 三、来校者 比留川正治氏 入営挨拶ノタメ

学童疎開

太平洋戦争末期に、政府が都市に住む国民学校初等科の児童を疎開させたこと。縁故により疎開する児童を除き、学校ごとに、初等科三丁六年生までを、地方の社寺や旅館に疎開させていました。

綾瀬村には、横須賀市の諏訪国民学校の児童が疎開してきました。一九四四（昭和一九）年八月二三日に入村し、早川・吉岡・上土棚地区の寺院や青年クラブで生活していました。

七月二十五日 火曜日

- 一、校長先生 靴配給ノ件ニツキ平塚二出向サル
- 一、昨日二引続キ薙刀講習ニ比留川、鈴木、鹿島ノ諸先生 茅ヶ崎第一校二出向サル

- 一、按摩奉仕 裁縫室ニテ行ハル
- 一、海軍用地水田ノ除草ヲナス
- 一、来校者 疎開児童父兄一、按摩奉仕関係者多数

七月二十六日 水曜日

- 一、初四以上 寺尾水田除草奉仕ヲナス
- 一、昨日二引続キ裁縫室ニテ按摩奉仕行ハル
- 一、薙刀講習ノタメ昨日二引続キ諸先生出向サル
- 一、来校者 按摩奉仕関係者多数

七月二十七日 木曜日 晴

- 一、野生苧麻蒐集協議会ノ為校長先生 地方事務所二 出向サル
- 一、乳幼児体格検査アリ（裁縫室）
- 一、職員常会
- 一、来校者 乳幼児検査員外多数 疎開児童父兄二

苧麻（ちよま）

イラクサ科の多年生草本。広く山野に自生し、根株から多数の茎がのび、二メートルぐらいになります。

太平洋戦争中、繊維原料が不足し、小学生にも繊維原料を集めることが奨励され、桑の木の皮を集めたり、蚕を家庭で飼ったりしていました。苧麻からは麻に似た繊維がとれるため、さかんに集められていました。

七月二十八日 金曜日 晴

- 一、海軍用地馬鈴薯掘（初五以上）
- 一、来校者 疎開児童父兄、転出児童父兄
- 一、座間国民学校ニ於テ銃剣道講習ニ左記受講
橘川 池田夕 鈴木ト

七月二十九日 土曜日

一、寺尾田ノ草取奉仕（初四以上）

一、来校者 疎開児童父兄一

横須賀市諏訪国民校「長外職員六氏

児童集団疎開二ツキ打合ハセノ為

一、乳幼児体格検査行ハル

横須賀市諏訪国民学校

現在の横須賀市立諏訪小学校（横須賀市小川町一八）のこと。綾瀬村に疎開してきたのは、児童一二名、付添二五名でした。人数が多く、長後・国分の二駅に分かれ入村し、村内に分宿していました。

当時、綾瀬村には海軍航空隊があり、横須賀同様空襲の危険が高く、児童の安全をはかるのに大変苦労していました。

七月三十日 日曜日 雨

一、左記文書受付

神奈川県公報号外、国民学校長宛三、青年学校長宛三 池田重先生宛一、

池田武先生宛一、鎌師生徒宛一九

一、来校者 松樹先生、田中サ、加藤ヤ、広田、峰尾ノ諸先生（執務ノタメ）

七月三十一日 月曜日

一、一学期終了式

一、桑皮出荷

一、疎開児童父兄来校

八月 一日 火曜日 晴

一、夏季鍛錬期間開始セラル

一、来校者 疎開児童父兄

山田先生、田中先生、榛葉先生

八月 二日 水曜日 晴

一、后二時ヨリ疎開打合会役場テ開カル

一、来校者 横須賀市諏訪国民学校長外七名来校セラル

校長先生 井上先生 池田重、池田武、橘川先生打合会出席ノタメ
田中先生、佐藤先生、比留川先生、加藤英先生（執務ノタメ）

八月 三日 木曜日 晴 三十二度

一、児童家庭実習用蚕種分配ス

一、来校者 比留川笑、加藤ヤ、峰尾訓導（執務ノタメ）

疎開児童父兄二、比留川正司氏

一、文書受付 公報千八百二十四号、学校宛二、神師生宛二五

八月 四日 金曜日 晴

一、銃剣道講習（茅一）橘川、池田武、鈴木先生出向サレル

一、来校者 疎開児童父兄二

一、文書受付

学校長宛二、学校宛一、井上先生宛一、神師生宛一七 役場ヨリ御所見
村葬其ノ他ノ件二ツキ

一、農業会ヨリ吉岡勤勞奉仕ノ完了ヲ電話ニテ報告アリ

一、午後七時〇二分 警戒警報発令

八月 五日 土曜日

一、大和町葬 后三 早川先生行カレル

一、池田重雄訓導 地方事務所へ出校

一、会計事務処理ノタメ左記登校執務

池田重、大塚訓導

一、校長先生執務

一、午后〇時三十一分警戒警報解除

一、文書受付

学校長宛一 神師生宛一一

八月 六日 日曜日 晴

一、来校者 大塚善先生

一、文書受付

学校宛二 青年学校長宛四 神師生宛一四

八月 七日 月曜日 雨

一、来校者 校長先生、大塚先生、執務ノタメ

一、文書受付

学校長宛一 神師生宛五

八月 八日 火曜日 雨後曇

一、大詔奉戴日 暁天草刈指導ヲ行フ

一、校長先生 御所見村葬ニ参列サレル

一、来校者 転入児童父兄一名 片野ミヨ子先生

八月 九日 水曜日 晴

一、高一女 農園作業ヲ行フ

一、来校者 池田重先生、鈴木徳先生、鹿島先生、大塚善先生

半島人二名(初六ノ先生ニ用アリテ)

一、文書受付

学校宛一 学校長宛一 青年学校長宛一

池田武先生宛一 神師生宛二

八月 十日 木曜日 晴

一、高一男 農園作業ヲ行フ

一、校長先生 校長会議ニ出席ノタメ地方事務所出向レル

一、来校者 池田重先生、鈴木徳先生、池田武先生、井上先生、諏訪国民学

校ヨリ五名 疎開児童父兄三名

一、文書受付

神師生宛五

八月十一日 金曜日 晴

一、高二女 午前中農園作業ヲ行フ

一、疎開ノ件ニツキテ 十二日荷物ヲ運び十三日二児童ノ疎開ヲナストノコ

ト 二時半頃役場ヨリ電話アリタリ

一、文書受付

校長先生宛一、池田武治先生宛一、加藤マツ工先生宛一 児童宛二、

神師生宛二四

一、来校者 疎開児童父兄三、加藤洞源氏

八月十二日 土曜日 晴 三十一度

一、高 一男召集 午前中農圃作業ヲ行フ

一、本日午前七時半職員常会開催

一、疎開（諏訪国民学校）児童ノ荷物 午前中、早川、上土棚へ 午後吉岡へ
着荷ニツキ 先生方分担シテ各方へ手伝ニ出向サル

一、大麦小麦ノ検査ヲ受ク

一、来校者 疎開者父兄 日中、検査員

八月十三日 日曜日 晴 三十二度

一、諏訪国民学校疎開児童入村ニ付職員児童（初六以上男女）ニテ各々分担シ
出迎へ接待ヲナス

早川 午前十時一〇分 国分着

吉岡・上土棚 午前十時一八分 長後着

一、午後二時半ヨリ高等科受持職員・高等科児童ノ勤労状況調査ヲ行フ

一、池田武先生・鈴木徳先生ニテ高等科男生ヲ引率シ疎開児童部落へ木材ノ運
搬ヲナス

一、来校者 疎開児童父兄五名 石井幹夫氏 卒業生女二名

八月十四日 月曜日

一、青年学校長・峯尾助役ニテ遺族訪問及墓参ノタメ村内各家ニ出向サル

一、校長先生宅ヨリ電話アリ（夜墓参ニ病氣ノタメ欠席トノ由ノ）

一、読売新聞番記者 疎開状況視察ノタメ来校ス

一、第一航空隊ヨリ草刈奉仕依頼ニツイテ二名来校

一、来校者 疎開児童父兄五名

一、疎開児童世話ノタメ各所ニ分レテ諸先生行カル

一、文書受付

鎌師生徒宛五 他二

八月十五日 火曜日 晴

一、志願兵募集映画会準備ノタメ横浜陸軍連隊区司令部ヨリ三名来校

一、波多野視学 疎開状況ヲ視察サル

一、校長 平問使ト共ニ戦没将士ノ家庭ヲ巡回サル

一、午后一時ヨリ諏訪校ノ先生、学務委員加藤氏来校疎開児童ニツキ種々ノ打
合せアリ

一、三男渡辺磯治ノ母親転校ノ手続ヲ依頼サル

一、受付文書

鎌師十七 校長宛一

備考 夜七時ヨリ九時三〇分マデ映画会アリ

他二異常ナシ

八月十六日 水曜日

一、青年学校男子部教練 女子部授業行ハル（午前中）

一、左記文書受付

国民学校宛一、学校長宛一、池田武先生宛一 鎌師生徒宛一六
一、来校者 組合比留川氏 井上先生 比留川先生 疎開児童父兄

八月十七日 木曜日 三十度

一、始業式 後清掃

一、縁故疎開児童受付（六四名）

一、少年団戦場生活錬成会二出向（大塚茂先生高一男六名）

一、欠勤者（鹿島孝子、鈴木もと子先生）

一、総務会行ハル（午後）

一、来校者（疎開児童父兄多数）

八月十八日 金曜日 晴 三十度

一、校長先生 出張

一、来校者 縁故疎開児童及ビ父兄数名

内務省 大沢氏 草刈ノ件ニツイテ

八月十九日 土曜日 晴

一、初五以上 午前中航空隊内ノ水田ノ除草ヲ行フ

一、横須賀諏訪国民学校疎開児童（早川部落ノ者）足ナラシノタメ来校

一、来校者 航空隊ノ大沢氏（草刈ノ件ニツキ）

福本氏 転入学児童父兄 一名

第二航空隊副官（綾瀬村史ヲ調べニ）

八月二十日 日曜日 晴

一、来校者 角田先生

一、左記文書受付

国民学校宛二、学校長宛三、青年学校長宛二、

池田重先生宛一、神師生宛二三

八月二十一日 月曜日 晴 二十九度

一、疎開児童及付添職員ト本校職員児童トノ紹介式ヲ挙行ス

一、午後ヨリ初四以上ノ児童ニテ草刈ヲナス

一、来校者 村長（疎開児童ヘノ挨拶ノタメ）

午後一時ヨリ乳幼児検査ノタメ係員数名

児童（疎開）父兄五名

一、午後諏訪職員ト打合会アリ

八月二十二日 火曜日 晴 二十二度

一、部落別二堆肥用草刈行ハル

一、左記文書受付

池田重先生宛一、鈴木ト先生二、神師生宛二七

一、来校者 疎開児童父兄一

備考 宿直料 八月廿三日済

八月二十三日 水曜日 晴

一、前日ニ引続キ部落別堆肥用草刈行ハル

一、校長先生、地方事務所ニ出向サル

一、池田重先生 農業講習出席（師範）

一、午後ヨリ職員会計アリ

一、来校者 疎開児童父兄三、